平成 23 年度　事務事業事後評価調書　(平成　22　年度事業)

整理番号	11	―	38

1　事務事業の表示

※ ■ ： 該当

事務事業名	ｽﾎﾟｰﾂ教室推進事業					
評価者	担当課名		教育振興課	担当係名		生涯教育係
	管理職	職名	課長	作成者	職名	主査
		氏名	髙橋健仁		氏名	佐藤公輔
事業の概要	町民や学校週5日制による余暇時間の増えた子ども達に広くスポーツに親しむ機会や健康を維持する学習活動を提供するため、各種スポーツ･学習教室を開催する。					

全体計画 (平成 20 年度～ 24 年度) 事業費	
国･道支出金	千円
地方債	千円
その他	千円
一般財源	1,200 千円
事業費計	1,200 千円

実施方法	■ 直営	民間委託	その他 ( )

第 5 期 総合計画 (前期)	■ 登載事業	非登載事業	優先度	B

事業の位置付け			
政策目標	3	のびやか･雄武～教育･文化の振興～	
基本施策	13	生涯学習･生涯スポーツの推進	
単位施策	2	学習･スポーツ活動の推進	
事務事業の種類	■	自治事務	法定受託事務
その他計画･根拠等			

事業費 実施年度	20年度 (実績)	21年度 (実績)	22年度(実績)	23年度(見込)	24年度(計画)
国･道支出金	千円	千円	千円	千円	千円
地方債	千円	千円	千円	千円	千円
その他財源	23 千円	21 千円	千円	千円	千円
雄武町負担額 (一般財源)	141 千円	104 千円	129 千円	230 千円	240 千円
合計	164 千円	125 千円	129 千円	230 千円	240 千円

2　事務事業の目的･内容 (Plan･Do)

【誰、何が (対象)】	町民
【抱える課題やニーズは】	参加者の固定･減少化を解消していくための、スポーツ参加の促進。
【どのような状態になることを目指したのか (意図)】	子どもから一般まで一人でも多くスポーツに親しむことを目指す。
【その結果、どのような成果を実現したいか】 ※成果＝目的	スポーツ意欲の向上とともに、体を動かすための楽しさと爽やかさ、運動後の体のケアを自己管理する。

望ましい指標 (目的達成状況を最も端的に表す理論上の成果指標)

参加者

指標 (指標計算式／解説)	目標値及び実績値	
① 参加者	目標年度	22年度
	目標値	250 人
	実績値	249 人
	達成度	99.6 %
②	目標年度	
	目標値	
	実績値	
	達成度	%

内容 (どのような手段で何を行ったか)	
各種教室の開催	町広報、学校、新聞チラシ等による周知を行い、体育指導委員、体育連盟等の指導者協力を得て開催。(わんぱく道場、AED、ジュニアスクール、ブルームボール教室)

3　事務事業の評価（Check）

（1）事務事業の必要性（町民ニーズ・社会情勢に照らして妥当か、町が担う必要があるか。当該事務事業を実施しない場合の支障、既存事務事業との機能重複や見直しによる対応可能性）

必要 必要／概ね必要／課題あり	□義務的なもの □全部 □一部	子どもから大人まで気軽にスポーツに親しむ機会が減少しており、生涯スポーツの推進を図るためにも各年齢層のスポーツ活動の参加を促進させる必要がある。

(2)事務事業の有効性（期待する効果が得られたか）

有効 有効／概ね有効／課題あり	設定した目標値の達成状況 ■達成 □ほぼ達成 □下回る	幅広い年齢層の活動促進がなされ、事業終了後も独自で活動を行うなど、町民ニーズに沿ったプログラム提供ができた。

(3)事務事業の効率性（コストに見合った効果が得られたか、計画上のコストを下げる工夫をしたか）

効率的 効率的／概ね効率的／課題あり	判断の理由 □事業費抑制 □人員削減 □時間短縮・作業軽減 ■その他	町内関係者が指導することにより、低予算で実施することができた。また、外部指導者を招へいした場合においても、比較的低予算で行うことができ、効率的に実施している。

(4)事務事業の公平性

公平 公平／概ね公平／公平でない	判断の理由 □受益者負担がある □受益者負担がない □受益が一部に偏る ■その他	対象は一般町民であることから、広く町民に呼びかけ、参加促進を進めたことから公平性は保たれている。

4　総合評価【A～D】

A：計画通り事業が進んでいる。目標が達成された。今後も計画通り事業を進めることが適当　等
B：ほぼ計画通りに進んでいるが目標に達成していない。事業の進め方に改善が必要　等
C：当初の計画を達成できていない。事業規模、内容、実施主体等の見直しが必要　等
D：事業効果が表れていない。事業の統合、休・廃止の検討が必要　等

自己評価（一次評価）	評価会議評価（二次評価）	町長評価（三次評価）
A		
町民の健康・体力づくりに寄与するためには必要な事業であり、町民のニーズを把握しながら実施した。		

今後の展開方向
（Action）

継続／現状維持		
ニュースポーツと健康体操は、町民ニーズに合った事業展開であるが、継続するためには指導者の育成・確保が不可欠である。また、ブルームボールが町の奨励スポーツとなり、更なる事業展開の方策検討のため継続が必要である。		

＊展開方向の区分
○ 継続／現状維持又は拡充又は縮小又は統合又は内容の見直し・変更　○ 終了　○ 休止　○ 廃止

5　その他特記事項（アンケート調査など外部評価を受けた場合は、その旨記入）